

お千代半兵衛の眠る丘からけいはんな丘陵を訪ねて



③ 稲植神社



② 釈迦の池



① 来迎寺



⑤ けいはんな記念公園



④ 畑の前遺跡



1. 来迎寺

旧来迎寺は749年（天平勝宝元年）今から1258年前、「行基^{ぎょうき}」と言う高僧によって東大寺系の末寺として創建されました。

幾つかの変遷^{へんせん}を経て来る間に、大火に遭うなどして過去帳などの資料も失ってしまっています。現在は「西山浄土宗引接山来迎寺^{せいざんじょうどしゅういんせつざん}」と言います。

何時の頃からか、この場所に移り1810年代、文化文政時代に再建された旧本堂は、藁葺^{わらぶき}、平屋建民家風の本造建物で二百余年を経て老朽化が甚だしく、平成5年8月から順次工事に着手し、平成8年12月にすべての建造物が無事に完成いたしました。

本堂、山門、鐘楼、客殿、庫裡^{くり}の全てを総工費5億円で新築されました。

落慶法要は平成9年3月に新本堂において盛大に厳修^{ごんしゅう}されました。

境内の主なものは、クスノキ、梵鐘、「お千代と半兵衛」の墓があります。

◎ クスノキ

「京都の自然二百選」（平成2年7月に設置）の植物部門に選定されました。

樹齢は不明ですが、樹周4.6米で樹高は約20米であります。

◎ 梵鐘

女性的で鐘の響きが大変良いので「お千代の鐘」といわれ、大晦日にこの鐘の音を聞くと借金取りも切り上げたので「厄払い鐘」と言われております。毎年大晦日には、100人余りの子ども達や老若男女が撞^つく「福德鐘」です。

◎ お千代と半兵衛の墓

江戸時代の浄瑠璃作家、近松門左衛門晩年の代表作、『心中宵庚申』は享保6年（1721年）4月6日未明に、大阪で実在した心中事件を素材に書き上げられました。

物語はお千代（上田村の大庄屋の二女）と半兵衛（大阪鞠の八百屋養子）と夫婦になるが、嫁ぎ先の姑と合わず離婚を言い渡された。

養母への孝行心と妻の愛情の板ばさみになり、半兵衛は帝釈天の縁日でにぎわう庚申前夜（宵）に大坂生国魂神社の境内で身重のお千代と夫婦心中を選びました。

お千代の父、島田平右衛門は三人の非業の死を悼み、菩提寺であるこの寺に墓を立て、永代供養を行ったとのこと。



2. 釈迦の池

過去帳などが残っていないので、詳しいことは解かりません。

今の来迎寺の前当たりも池の東側にあたり、大きく広がっていたと思われます。

池には、橋が架かっていたり、水辺には御堂なども建っていて、水面に映えていたのではないのでしょうか。

稲植神社案内

○住所 ； 京都府相楽郡精華町植田上山 1 2 2

○神社の由緒概略

稲植神社は今より、約 550 年前の、室町時代中期に春日神社を^{かんじょう}勧請されたと伝えられております。（**神仏の分身・分霊を他の地に移して祭ること**）元来『上田の^{やしろ}社』という名の神社で、上田村のみの氏神であったのですが、その内南稲村にも氏子が出来て、南稲村の『稲』と上田村の上を『植』に変えそれを合せて『稲植神社』と命名されたようです。

この神社は「元祇園」（京都八坂神社の元）と呼ばれて、明治以前は神仏習合の神宮寺でしたが明治維新政府が祭政一致の方針に基づき神仏習合を廃止し、明治二年に新たに神社を再建した際にその寺（東福寺）を取壊したと云われています、それ以後、水害や数々の災害に遭遇し、現在の社は昭和 28 年から再建されたのです。

○御祭神 本社 ^{たけはやす さ の お のみこと} 建速須佐之男 命

末社 ・ 八幡宮 ^{おうじんてんのう} 応神天皇 ・ 天満宮 ^{すがわらみちざね} 菅原道真

・ 熊野宮 ^{いざなみのみこと} 伊那那美 命 ・ 八王子宮 五男三女の神々

末社 ・ 四ノ宮（春日宮）

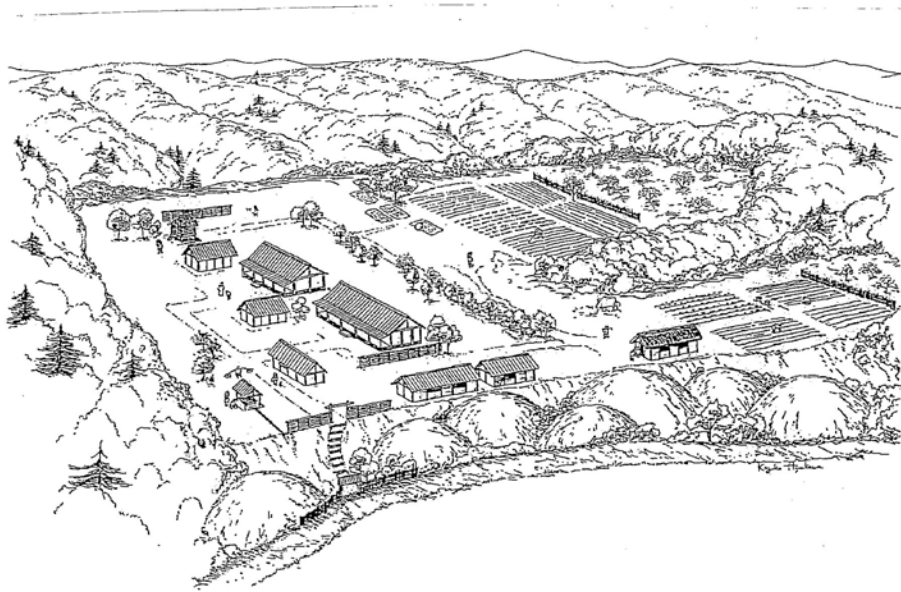
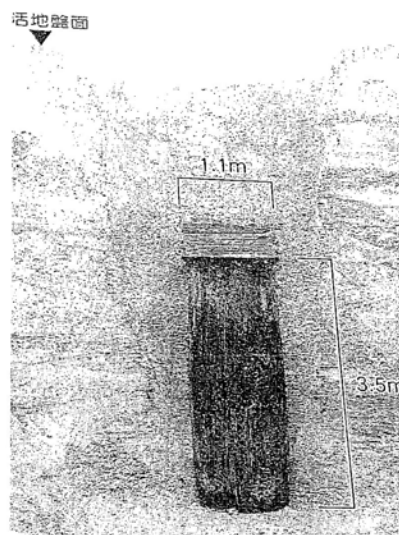
○神社の祭事

毎月	1 日	月次祭	7 月	14 日	祇園祭
1 月	8 日	御田松	10 月	17 日	神宮祭(通称)秋季祭
2 月	3 日	節分祭	11 月	23 日	新嘗祭

畑ノ前遺跡発掘の跡



井戸の跡



畑ノ前遺跡 復原図

畑ノ前遺跡の概要

発掘調査は昭和 59 年～60 年度（1984～85）に実施され、弥生時代中期の集落跡に奈良時代の邸宅跡が重なるという複合遺跡が発見された。同時に、周辺部から古墳時代後期の円墳も見つかった。

調査後、遺跡跡は埋め戻され、畑ノ前公園（2 万平方m）として整備された。遺跡部分は約 3 千平方m。

①弥生時代中期（西暦前 100 年～西暦 100 年）の集落跡

10 棟の竪穴式住居跡（半円形の点線）が見つかったが、同時期には 3～5 棟の住居が建っていたと想定されている。

②古墳時代後期（6 世紀前半～7 世紀前半）の古墳群

7 基の横穴式石室を持つ小規模な円墳（図面右の楕円形点線）が確認された。石室に河原の石を使っており、長良川下流域で多数発見されている様式と類似している。しかも同地は古代、美濃の国安八（あんはち）郡と呼ばれ、姉妹間郡とも表記された。精華町には北稲ハ間、南稲ハ妻という集落があり、その類似性が注目されている。

③奈良時代（710～794）の建物跡

2 3 棟分の柱跡（サイコロ状の黒点）が見つかった。何度か建て替えられ、規模が拡大されていったようだ。宅地東南隅からは深さ 7m の井戸の跡が発見された。井戸枠の下部に高さ 3.5m、直径 1.1m のヒノキの木をくりぬいた井筒が据え付けられていた。柱跡が、奈良の都と同様に東西南北の方向に正確に並んでいること、他に類を見ない 1 級の井戸を備えていることなどから、都に関係する身分の高い人の屋敷とみられている。古文書には、当時このあたりに稲蜂間（いなはちま）という豪族が住んでいたと記録されており、孝謙天皇（752～757）に使えていた稲蜂間宿禰仲村女（いなはちまのすくねなかむらめ）に関係した屋敷ではないかと見られている。



けいはんな記念公園とは

公園全体の概要

1 自然を大切にした水と緑のあふれる公園

- この公園は、自然との調和・共生を基本テーマに設計されました。
- 南山城の代表的な自然林や池（永谷池）を保全した「自然保全区域」と、多くの人々が語らい、憩い、ふれあう場としての芝生広場、里山を表す谷間と伝統的日本庭園（水景園）の交流施設区域から成っています。

2 水景園については

- 特に伝統的な庭園技法を駆使し、斬新な様式美を備えた平安建都1200年の記念となる新しい池泉回遊式日本庭園です。
- 池泉回遊式の水景園は、鯉の泳ぐ緩やかな水景棚に囲まれ、会議室やギャラリーを備えた複合施設「観月楼」とそれにつながる「観月橋」があります。秋の紅葉は特に美しく、岩礁を背景に見事に赤く染まる葉色が見どころです。

水景棚/渡り石



巨石群



永谷池



谷あい



芝生広場



✕E

エチケットを守りましょう！

- ◎ 交通ルール of 遵守。
- ◎ ゴミは捨てずに持ち帰る。
- ◎ 通り道の草花は絶対に摘み取らない。
- ◎ トイレ等へ行ったり、途中で帰る場合は